

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2014-07-20

APM news 106

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館(旧北越銀行宮内支店)



第24回美術館大学 5月31日(土) pm3:00~4:30/受講者:64名

『宮内・摂田屋百景』について2

講師:高田清太郎、大町駿介、秋山孝

〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233



秋山孝ポスター美術館長岡(APM)の建物は1925(大正14)年長岡市宮内に長岡商業銀行として新築された。以後、宮内の人々の生活に寄り添いながら、第2次世界大戦での空襲被害、いくたびもの地震、豪雪といった苦難とともに経験し、2009(平成21)年7月「秋山孝ポスター美術館長岡」として開館した。そして2014年4月、APMは第16回企画展「宮内・摂田屋百景 展」において宮内と摂田屋の魅力をポスターというメディアで再発見、発信した。第24回美術館大学では、幼い頃から建築物に興味を持ち、修士論文で「建物イラストレーションの意義」を研究・発表した大町駿介氏、長岡市宮内出身で、多摩美術大学で大町氏の指導に当たった秋山孝氏、40年間長岡の住宅を建築・設計してきた建築の専門家、高田清太郎氏、以上の3名の方に「『宮内・摂田屋百景』について2」と題して講演していただいた。

高田氏が代表取締役社長を務める高田建築事務所では雪国長岡に適する建物を様々に考案してきた。例えば、やじろべえ工法。「やじろべえの持つバランス性を建築構造に活かし、積雪荷重を均等に分散させることにより、2.0~2.5メートルの雪に耐える安定性を確保した」ものである。^[注1]

大町氏が研究の対象として選んだのが宮内・摂田屋地区である。大町氏は調査のため2013年に5回両地域を訪れ、計32日間の実地調査を行った。その期間内は両地域だけでなく、周辺地域(長岡市中心部・郊外・栃尾・山古志、見附市、小千谷市、柏崎市、上越市高田・直江津)も実際に巡り、宮内・摂田屋との比較を行った。そこから分かったことは、栃尾、見附などは旧長岡藩領であり長岡式の建物が、高田や直江津は旧高田藩領であり高田式の建物が並ぶことであった。両者の明確な違いは、高田地域の町家が「平入」であるのに対し、長岡地域は「妻入」となっており妻面の木組みを美しく見せている点である。更に宮内・摂田屋の特徴としては妻入・雁木という枠組みの中に、各家で施された補修が個性として見られる点である。

最後に秋山館長は町づくりについて言及した。町づくりは、町の独自性、魅力を住民それぞれが理解し、意見を持ち、主張していくことが重要であるとした。町には、現在だけでなく過去、未来といった「時間」、産業や教育、自然の恵みといった「環境」がそれぞれにある。また周辺地域との関わりあいの中から生まれた「文化」も存在する。町は独立して存在するわけではない。我々はそれを認識し、周辺地域も含めた町のあり方を、住民ひとりひとりが考える必要があると述べた。(APM公式ホームページより抜粋)

注1:「超安定構造の木造耐雪住宅 やじろべえ住宅」¹⁾ 高田建築事務所 <http://www.takada-arc.com/philosophy/yajirobe.html> 2014年6月4日閲覧